



KAGOHASHI Sae
籠橋 小枝 氏

【Profile】

2005年3月 教育学部人間発達科学科卒業。

小牧市立北里中学校 教員。

教員を目指したきっかけは、小学生の時の憧れの先生との出会いでした。その先生を目標にし続けてきました。「総合大学の教育学部の方が視野が広がるのではないか」という高校の先生のアドバイスから名古屋大学を受験しました。

2012年取材

学部ではどんなことを学びましたか？

入学前は、教育学は「勉強の教え方を学ぶ学問」だと思っていました。ところが、教育学部では授業での教授法だけでなく、教育哲学や社会教育、職業教育、教育史など、教育にまつわる幅広い知識を学びました。「教える」「学ぶ」という行為が、一生関わっていくものだと深く理解できたと思います。

私が所属していたのは、主に学校教育の内容・方法・環境の情報化について研究する教育情報学ゼミです。また、授業中の教師と生徒の行動や発言を分析する教育方法学も詳しく学びました。3年生時には、愛知県の宮崎小学校で、授業分析の実習をしました。私たち学生による授業の時間もあり、自分たちの考えた内容に対する子どもたちの反応を見るのが、とても楽しかったです。

卒業論文の内容を教えてください。

卒業論文では「キャリア教育」をテーマにしました。当時は中学校に「職業人体験」が取り入れられ始めたばかりの頃でした。「教員になるなら、教科指導以外の知識もきちんと身に付けなくてはいけない」と考えて選んだテーマです。中学校で職業人体験の実践を調査して卒業論文にまとめました。この時に得た知識は、学校現場でも役立っています。大学生活を通して、教科教育からキャリア教育まで、教員として持っていたい知識を幅広く得られたと感じています。

現在の仕事について教えてください。

中学校で国語を教えています。一方的に教える授業ではなく、生徒同士の話し合いを大切にしています。「この言葉の意味が分からない」「登場人物はこんな事を考えていたと思います」といった生徒の発言から授業を展開する方法です。一人ひとりの疑問や気づきを全員で共有して、学び合える時間にしたいと思っています。

大学での経験は仕事で生かされていますか？

私の授業の礎になっているのは、大学時代の宮崎小学校での経験です。宮崎小学校では、子どもたちが活発に意見を出し、生き生きと学んでいました。私は実習で、教室で飼育していたカブトムシの一生を劇にする授業をしました。観察記録をもとに、子どもたちにストーリーを考えてもらう内容です。「幼虫はこんな動きだった！」「羽化する時はどんな様子だったっけ？」と、みんな積極的に話し合いをしていました。一生忘れられない思い出です。教員になっても、「生徒がどんどん発言できる授業を作りたい」と思い続けてきました。お手本にしたい授業実践と、大学で出会えたのです。

先日、卒業生が遊びにきて「先生の国語の授業をもう一回やってもらいたい」と言われました。学び合う授業の面白さを感じてくれていたと分かって、とても嬉しかったです。